

「初めに学校ありき」と「初めに子どもありき」 内容説明

江戸幕府から明治政府へと政治体制が一新されたとき、教育もまたそれまでの寺子屋あるいは手習い塾から現在の学校の原型ともなる小学校が設置されました。新政府は明治5年に太政官符を發布して学制を整備しましたが、京都ではそれに先立つ明治2年から上32校と下32校の計64校の番組小学校が設置されて、学区制に基づく近代学校がスタートしました。近代学校は、文明開化の先駆けとして、また欧米の科学技術の導入の担い手としての役割を果たしてきました。また、第二次世界大戦後はわが国の経済復興と科学技術の振興ならびに民主主義の普及に大きな役割を果たしました。

このような状況では、固有な名前をもった一人ひとりの子どもの能力を育成することよりも、成績の平均値や上級学校への進学者数で語られる学校教育として発展してきたといってもよいでしょう。教科内容を効果的に教育することが学校教育のもっとも重要な課題とされてきました。京都市学校歴史博物館(京都市麩屋町松原上がる)を訪れると明治初期の学校がどのようなものであったかを知ることができます。建物や机や実験設備などの施設設備あるいは教科書や教育課程などが展示されています。しかし、その当時の子どもたちの写真から服装や髪型を知ることではできても、残された資料から一人ひとりの子どもがどのように学んだのかをうかがい知ることはできません。わが国の近代教育は「初めに学校ありき」としてスタートしたのです。そして当時の国家中心の教育理念とそれを実現するための教育方法が重視されました。しかし、世界にも誇れる日本の学校がいま転換期にさしかかっています。 [「教育の方法と技術」第3章 56-61 ページ 参照](#)

子ども中心の教育の考え方は決して新しいものではありません。近代教育の初期の実践にもみられるように、ペスタロッチ(Johann Heinrich Pestalozzi, 1746-1827)は貧しい子どもたちを集めて学校を開きました。デューイ(John Dewey, 1859-1952)は子どもが経験していることを重視し、そこから教育を実践し理論化することに努め、最初から教える内容が存在し、それを一方的に教えるという方法を批判しました。わが国でも大正時代には子ども中心の教育が推進され、さらに第二次世界大戦後でも多くすぐれた教育思想や教育実践が行われてきました。現在でもいたるところで優れた教育実践が行なわれています。子ども中心の教育は子どもがしたいようにさせるのではなく、子どもの価値観や認識過程などを十分に理解した上で、教育を綿密に計画し実行することであるので、高度の専門知識が要求されるきわめて専門性の高い教育です。このような力量が今最も求められているのです。

教科書「教育の方法と技術」1章1-29ページ 参照

自由課題

この授業が進む過程で自分の興味関心と時間の余裕をみて、つぎの事項について調べてみよう。その結果をまとめて、自分のチーム名と氏名とファイル名(例：A1-氏名-ファイル名)をつけて教材創庫に掲載しなさい。そうすれば他の人もその知識を活用することができます。

「教育の方法と技術」の第1章にでてくるさまざまな教育思想家の子ども観あるいは教育観について賛同できる考え方と反対の考え方とをとりあげてみよう

自分で読んだ教育あるいは学校に関する書物で他の人に薦めたいものはなんですか

その他、これまでに教育の思想、子どもについての考え方、優れた教育実践をした人の伝記を調べてみよう。

チームメンバーと議論してみよう

学習管理システムの掲示板に自分の意見を自由に書き込んでみよう。また、他の人が書き込んだものに応答してみよう。なお、掲示板がうまく機能するためにはつぎのようなことが大切です。

他人の意見を批判しても非難しないこと。(批判と非難はどう違うか)

自分に関係のある意見や質問にはできるだけ誠意をもって応答すること。

コメントについては感謝の気持ちを忘れないこと。

批判すれども非難せず

われわれは欧米の人達と比較すると議論することが不得意であるといわれています。その原因は、批判することと非難することとがはっきりと区別されていないことにあると考えられます。批判するということは、議論しているときの問題に対して、お互いの考え方が合理的で適切であるかどうかを吟味していく過程であって、議論している人の人格とはまったく関係ありません。問題を論理的に吟味し検討するというのが議論ですから、議論を展開していくときに主張が論理的であることが前提になります。そのために相手の主張の非論理的なところを批判しても、相手の人格を否定してはなりません。あくまでも主張が論理的に展開されているかどうかの問題になります。非難と批判は辞書ではどのように説明されているでしょうか。広辞苑ではつぎのように説明されています。

非難：欠点・過失などを責めとがめること。非として難ずること。

批判： 批評し、判定すること。

人物・行為・判断・学説・作品などの価値・能力・正当性・妥当性などを評価・検討すること。否定的内容をもつものをいう場合が多い。

事物を分析してその各々の意味・価値を認め、全体の意味との関係を明らかにし、その存在の論理的基礎を明らかにすること。

とくにわれわれが共通する問題を吟味しているときは、批判の の意味が重要です。批判というのは「物事の論理的基礎」をお互いの議論を通じて明らかにしていく過程であるといえるでしょう。